

<全体分析>

試験時間

120

分

解答形式

客観式の設定が3問で、あとはすべて記述式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

英文の語数は2,006で、4年連続して2,000を超えている。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・大問1題の構成は12年続いている。
- ・本学部では、設問はすべて英文の前に置かれている。
- ・字数制限のある内容説明問題が出題されるのが本学部の特徴で、2025年度は「60字以内」が1問、「100字以上120字以内」が1問出題されている。
- ・2024年度と同様に、他の設問群とは独立した形で英問英答の自由英作文問題が出題されている。
- ・2023年度まで出題されていた和文英訳と比べると自由英作文にはより多くの時間が必要となるため、試験時間が120分あるとはいえ、全体的な時間配分には注意が必要だろう。

その他トピックス

- ・2024年度と同様に、短い字数指定の内容説明問題には「意味するところを…説明しなさい」という指示があり、指定字数に合わせて説明すべき内容を検討する必要がある。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
	読解総合	「戦争が根絶できない理由について」 (2,006 words)	A: 下線部和訳 (2問)、空所補充 (3問)、内容説明 (2問) B: 自由英作文 (1問) A 1. a messy cocktail of ideas をどうやって自然な日本語にするかがポイント。 2. elude Aは「Aの思うようにならない」という意味。 3. 空所を含む文の述語で would have chosen という仮定法が用いられていることから考える。 4. 「斜体 (イタリック) の語の含意を踏まえて」説明するよう指示がある。本文には not <i>in our genes</i> but <i>for our genes</i> とあるので、それぞれの前置詞が強調されている意図を理解し解答する必要がある。 5. ここでの agenda は「課題」という意味。なお、空所の前にある beg the question は「論点を巧みに避ける」という意味。 6. be about to do は「まさに…するところである」という意味だが、後続部分に future という語があり、訳出しにくい。order は、ここでは「秩序」という意味。 7. 第5段落以降の議論の展開をふまえて解答するとよい。 B 現代の世界平和に対する最大の脅威が何だと思えるのかを説明し、その脅威に対してどのようにすればより平和な世界を構築できるのかを英語で述べる。「解答する際に本文を参考にする必要はない。語彙力・文法力だけでなく、内容の明確さに関しても評価される」と付け加えられている。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・例年、設問のほとんどは記述式なので、正しい日本文・英文を書く訓練を積んでおくことが必要である。特に日本文は、自分の言いたいことが採点者に正確に伝わるような文章を心がけてほしい。
- ・内容説明の設問では、設問文から出題者の意図を汲み取ったうえで、英文中から解答の根拠となる部分を抽出する必要がある。100～120字といった字数制限のある説明問題では、解答の根拠になる部分が英文中で一箇所にとまどっていない場合もあるので、過去の問題などを利用して、どの内容を盛り込むべきなのか判断する眼を養っておくとよい。
- ・辞書の持ち込みができるので、難しい語彙・語義に神経質になる必要はない。ただし、見たことのない表現や記憶のあいまいな表現を片っ端から辞書で確認している時間はないので、文系の他学部と同程度の語彙力は身につけておくべきだろう。